

下総基地の騒音は？

下総基地は戦前広大な「藤ヶ谷ゴルフ場」でした。戦時中飛行場が作られ、敗戦後米軍の接收、そして返還後海上自衛隊の基地として機能。今は P3C の教育航空群として位置づけられています。1982 年厚木基地でおこなわれていた米艦載機ジェット戦闘機の夜間離着陸訓練（NLP）の候補地に挙げられたが、周辺自治体の市民・自治会・行政・議会が一体となって反対し今 NLP をこさせないでいます。厚木の米艦載機 59 機は岩国基地に移駐しましたが最終的な離着陸訓練地は決まっています。下総基地は 1987 年には対潜哨戒機 P2J から P3C に変わるのにあわせてジェット戦闘機も使用できるほどの滑走路(2250m)のかさ上げ工事がされています。

毎年ピースサイクルでの下総基地への申し入れで「最近騒音がひどいようだが？」と問うても下総基地の監理幕僚は「訓練回数は同じです。特別増えていません」と。「飛行経路が変わっているのでは？」と問うても詳しくは答えません。自衛隊の内部情報は極力外へ出さないといった対応に変化しています。1980 年代は基地の配備機種も台数も教えてくれましたが、いまは市の職員が基地に P3C が何機あるか聞いても答えません。

「下総飛行場周辺航空機騒音測定結果報告書」で明らかのように 1992 年から 2019 年 27 年間騒音状況（基準値 70WECPNL）は改善されず、鎌ヶ谷市民体育館（福太郎アリーナ）周辺では嘉手納騒音訴訟判決で示された損害賠償に値するうるささ指数 75W 値を超える 77～82WECPNL（うるささ指数）を示しています。2013 年からは新基準になり時間帯補正等価騒音レベル（Lden）に変更されて基準は Lden57 デシベル以下が環境基準になりました。福太郎アリーナは Lden59 デシベルです。ただ新基準のほうが以前のうるささ指数よりも基準値を超えないケースが増えています。（実際はうるさいのです）

下総基地の航空機騒音は P3C ですが輸送機 C-1 や C-130 が飛来するときがもっとひどいです。重苦しいジェット音を振りまくので耐えられません。

下総基地のこれからの課題は

①P-1 の問題：2022 年以降 P3C からジェットの対潜哨戒機 P-1（幕張メッセ武器見本市で展示されていた）に更新されることが決まっています。P-1 は重量も 56.5 t から 79.7 t と重くなるので騒音が心配です。防衛省は P3C より騒音は小さくなると言っていますがジェット音が心配です。ホルムズ海峡の問題で中東周辺への調査研究で派遣されるのが P-1 か P3C です。下総は教育訓練基地ですが P-1 は戦場とつながっているのです。

②オスプレイ 17 機が木更津に配備されたら：事故率の高い危ないオスプレイが飛来したら普天間周辺のように“低周波の重苦しいヘリ音”で悩まされることになるでしょう。防衛省の木更津市での説明会（8/3）で明らかになったことは、今の木更津第一ヘリコプター団と同じ訓練ルートで低空も夜間も訓練する

とのこと。習志野空挺団と一緒に活動するとのことでした。下総基地は空挺団の落下傘訓練時には入間一下総一習志野と一体的に使われています。又最近これまで一度も飛んでこなかった木更津第一ヘリコプター団のヘリコプターが下総に飛来しています(何なのでしょう?)。横田基地には米空軍の CV-22 オスプレイが 10 機配備されます。「米軍と自衛隊のオスプレイの共同訓練はありうる」と防衛省は答えています。下総基地周辺的生活環境をこれ以上悪くさせないためにも、日米軍事一体化の象徴であるオスプレイを日本の空に飛ばさせないためにもはっきり NO! の声を上げていきましょう。

下総基地の騒音問題解決為には周辺自治体と下総基地との間で飛行等の“協定”を結ぶ必要があります。住民から要請していきましょう。

「民主と自治の会」 ふじしろ政夫